

令和4年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金（慢性の痛み政策研究事業）
分担研究報告書

痛みセンターを中心とした慢性疼痛診療システムの均てん化と
診療データベースの活用による医療向上を目指す研究

研究分担者 渡邊 恵介 奈良県立医科大学麻酔科 病院教授

研究要旨

慢性疼痛診療システムとして痛みセンターを構築，運用を行う．集学的治療を実際に行い，その有用性を明らかにし，その問題点を解析する．

A. 研究目的

痛みセンターによる慢性疼痛の集学的治療を行い，その有用性と問題点を明らかにする．

ロック後のコンビーム CT により椎体周囲・硬膜外造影が確認された一症例．慢性疼痛.41(1).117-119. 2022

B. 研究方法

当附属病院ペインセンター内に慢性疼痛外来を週に1回開設し，治療効果を検討する．

スタッフは看護師，理学療法士，公認心理師，麻酔科医で，2週に一回の頻度で半年の外来プログラムを行った．

（倫理面への配慮）

研究発表に際しては当施設の倫理規定を準拠する

2. 学会発表

- 1) 藤原亜紀, 渡邊恵介, 大倉裕理, 北川絵美, 坂田幸代, 林和代, 河野歩未, 川口昌彦. 当院の慢性疼痛外来の状況. 第52回慢性疼痛学会. 2023. 3. 10~11. 福岡市
- 2) 北川絵美, 河野歩未, 林和代, 坂田幸代, 藤原亜紀, 大倉裕理, 渡邊恵介, 川口昌彦. 慢性疼痛外来における看護師の役割. 第52回慢性疼痛学会. 2023. 3. 10~11. 福岡市
- 3) 大倉裕理, 藤原亜紀, 渡邊恵介, 坂田幸代, 林和代, 北川絵美, 河野歩未, 川口昌彦. 調整的音楽療法が慢性疼痛患者の痛みによる苦痛の軽減に寄与した一症例. 第52回慢性疼痛学会. 2023. 3. 10~11. 福岡市

C. 研究結果

1年間で12人の集学的治療を行った．うち7人について検討したところ，痛みスコアは不変であったが障害度は有意に改善した．

D. 考察

理学療法を中心とした集学的治療を行い，ADLが改善することが示唆された．

E. 結論

集学的治療により，障害度が改善した．

F. 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1.特許取得

なし

2.実用新案登録

なし

3.その他

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 吉村季恵, 渡邊恵介, 藤原亜紀, 木本勝大, 川口昌彦. 透視下胸部交感神経節ブ

